大磯町第五次総合計画策定ワークショップ

「みんなで考えよう！未来のおおいそ」

結果報告書

令和２年１月

目　次

１　ワークショップの実施概要 ･･･ １
（１）開催の目的 ･･･ １
（２）開催概要 ･･ １
（３）各回の内容 ･･･ １

２　ワークショップ結果（全体）のまとめ ･････････････････････････････････････ ２

３　ワークショップ結果（各回）のまとめ ･････････････････････････････････････ ４
（１）第１回ワークショップ ･･･ ４
（２）第２回ワークショップ ･･･ 10
（３）第３回ワークショップ ･･･ 14
（４）第４回ワークショップ ･･･ 23

1　ワークショップの実施概要

（1）開催の目的

大磯町では、令和３年度から 12 年度までの 10 年間を計画期間とする新しい「大磯町第五次総合計画」を策定している。総合計画は、長期的な展望のもと、総合的かつ計画的なまちづくりを進めるための目標や施策推進の方向を示す指針となるものである。

この新しい総合計画の策定にあたり、町民意向を総合計画に反映するとともに、町民の共感が得られる計画とすることを目的として、ワークショップ「みんなで考えよう！未来のおおいそ」を開催した。

本ワークショップの結果については、総合計画審議会及び総合計画策定庁内会議等、総合計画の策定過程における基礎資料として活用する。

（2）開催概要

	日時	場所	参加者数
第1回	令和元年 10 月6日（日）10:00～12:00	役場本庁舎4階　第1会議室	17 名
第2回	令和元年 10 月 20 日（日）10:00～12:00	役場本庁舎4階　第1会議室	8名
第3回	令和元年 11 月3日（日）10:00～12:00	保健センター2階　研修室	12 名
第4回	令和元年 11 月 17 日（日）10:00～12:00	役場本庁舎4階　第1会議室	13 名

（3）各回の内容

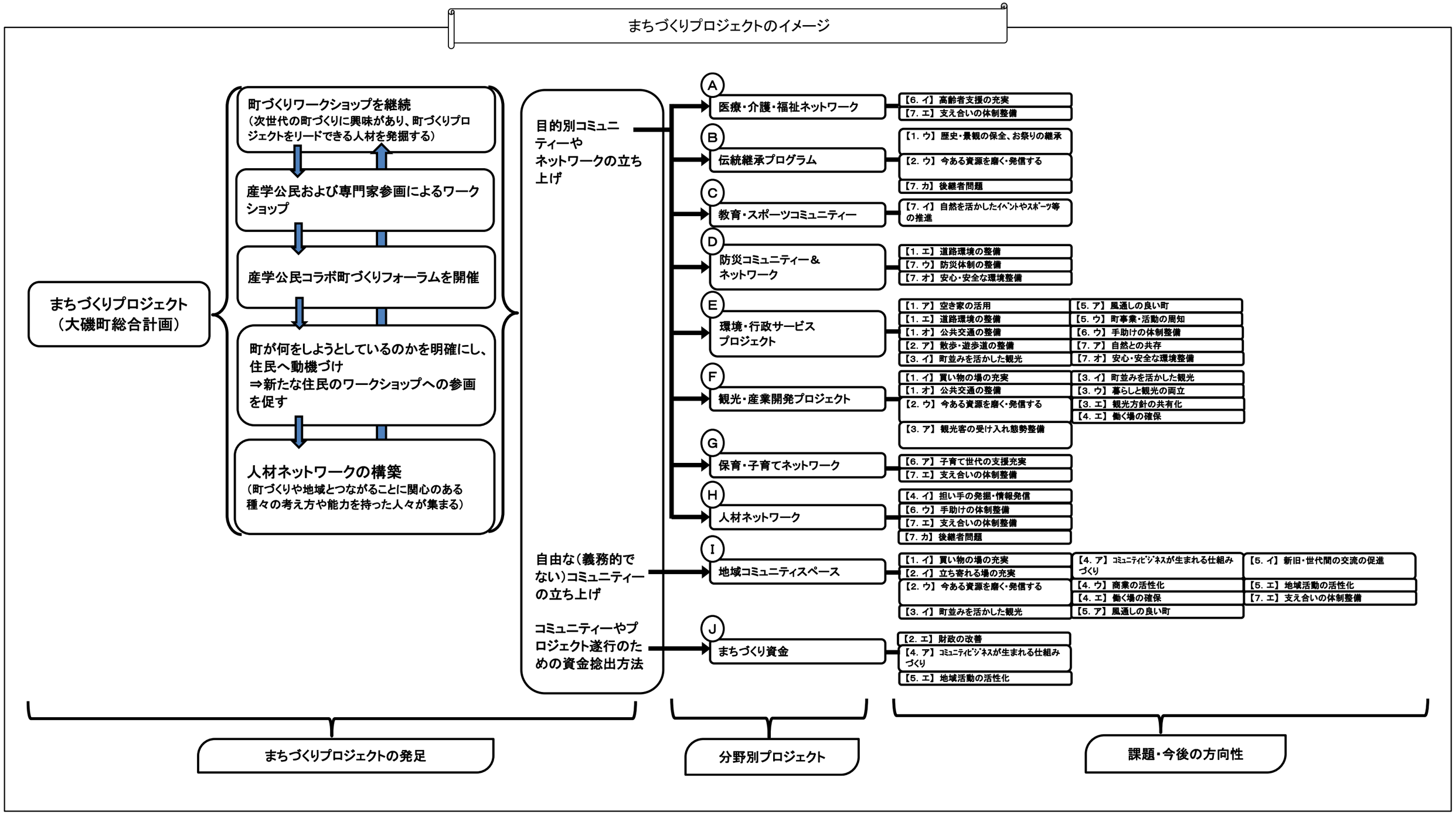
	テーマ
第1回	**○総合計画とワークショップ、大磯町をめぐる環境変化等**（事務局説明） ・総合計画の概要や策定体制、本ワークショップの位置づけ、大磯町の状況などについて説明。 **○大磯町の良いところを町外の人に自慢するとしたら** ・案外知られていない、気づいていないけど実はすごいもの、もっと活用できそうなものを含めて、町外の人に自慢できる大磯町の良いところを出し合う。
第2回	**○自分の目指したいまちをイメージする** ・第1回で出し合った大磯町の良いところを参考に、目指したいまちのイメージを出し合う。
第3回	**○目指すまちのイメージに対応した「課題」** ・第2回で出し合った目指すまちのイメージを集約し、それぞれのイメージを実現するための課題を出し合う。
第4回	**○目指すまちのイメージごとの「課題を解決するための手立ては何か」** ・第3回で出し合った目指すまちのイメージに対応した課題について、課題を解決するための手立てを出し合う。

2　ワークショップ結果（全体）のまとめ

4 回のワークショップを通じて、「目指すまちのイメージ」として７つのイメージが導き出されました。また、そのイメージを具現化するための課題や今後の方向性が浮かび上がりました。

	目指すまちのイメージ	課題・今後の方向性
1	今あるものを大事にする、活かす町	・空き家の活用 ・買い物の場の充実 ・歴史・景観の保全、お祭りの継承 ・道路環境の整備 ・公共交通の整備
2	ちょっと立ち寄れる居場所、魅力のある町	・散歩・遊歩道の整備 ・立ち寄れる場の充実 ・今ある資源を磨く・発信する ・財政の改善
3	大磯らしい観光を発信する町	・観光客の受け入れ態勢整備 ・町並みを活かした観光 ・暮らしと観光の両立 ・観光方針の共有化
4	地元で働ける町	・コミュニティビジネスが生まれる仕組みづくり ・担い手の発掘・情報発信 ・商業の活性化 ・働く場の確保
5	誰もが風通し良く暮らせる町	・風通しの良い町 ・新旧・世代間の交流の促進 ・町事業・活動の周知 ・地域活動の活性化
6	子育てや高齢者に優しい手助けのある町	・子育て世代の支援充実 ・高齢者支援の充実 ・手助けの体制整備
7	自然と共存した安心・安全な町	・自然との共存 ・自然を活かしたイベントやスポーツ等の推進 ・防災体制の整備 ・支え合いの体制整備 ・安心・安全な環境整備 ・後継者問題

さらに、これらの課題・今後の方向性を具現化していくための仕組みについても検討が行われ、「まちづくりプロジェクト」としてまとまりました。



3　ワークショップ結果（各回）のまとめ

（１）第１回　第五次総合計画策定に係るワークショップの実施と結果の概要

①実施概要

日　　時　　令和元年 10 月 6 日（日）　10:00～12:00

場　　所　　大磯町役場本庁舎　４階　第１会議室

参加者数　　17 名

②第１回ワークショップのタイムスケジュール

	項　目	時間
1	受付開始	9:45
2	あいさつ	10:00
3	総合計画とワークショップ	10:05
4	大磯町をめぐる環境変化、アンケート調査の結果	10:15
5	ワークショップの説明	10:30
6	ワークショップ開始 ●自己紹介	10:45
	各グループの発表会	11:30
	同感と思う表題にシールを貼る	11:45
7	次回のワークショップの確認	11:55
8	終　了	12:00

③第１回ワークショップのまとめ

10 月 6 日（日)、役場本庁舎 4 階第 1 会議室を会場に、総勢 17 名の町民の皆さんのご参加により、大磯町第五次総合計画策定のための第 1 回ワークショップが開催されました。

最初に、事務局より現行の第 4 次総合計画の概要、新たに策定する第五次計画と本ワークショップの位置づけ、大磯町をめぐる社会経済状況の変化に加え、昨年度実施したアンケート調査の結果の概要について説明が行われ、実際のワークショップへと入りました。

ワークショップでは、3 つのグループに分かれてそれぞれ自己紹介から始め、次に第 1 回のテーマである「大磯町の良いところを町外の人に自慢するとしたら（案外知られていないもの、気付いていないけど実はすごいもの、もっと活用できそうなものなども含め)」について、フセンに記入をしながら貼り出していきました。

その後、記入したフセンについて内容が似たものをグルーピングし、それぞれに表題を付け、最終的には各グループによる話し合いの結果を発表していただきました。各グループの結果の概要は以下の通りです。

【検討結果の概要】

「A 班」

・Ａ班では、『海』、『山』などの自然、通勤環境の良さをや『駅』前の雰囲気や環境の良さのほか、『人』、『歴史』、『食べ物』、『教育・スポーツ』など幅広い分野に渡り、大磯町の良いところがあげられました。

・特に『食べ物』、『駅』、『教育・スポーツ』などに共感する声が多く集まりました。

発表の様子

【検討結果の概要】

「B 班（B、C班)」

・Ｂ班では、海・山や気候などの『自然』環境の良さ、町の静かさや治安の良さなどの『住みやすさ』、通勤利便性を評価する『交通』、『歴史』などが、大磯町の良いところしてあげられました。

・特に『交通』の中であげられた「都心にも通えるほどよい田舎」に共感の声が多く集まりました。

発表の様子

「C班（D、E、F班）」

・C班では、１人１人の町民力など『町の人に関すること』、箱物が少なく、個人商店が多いなど『暮らしに関すること』、空気がきれいで自然豊かなど『自然に関すること』、『町の役場に関すること』などについて、大磯町の良いところとしてあげられました。

・特に『町の人』の中の「一人一人の町民力が高い」に共感する声が多く集まり、『自然に関すること』、『観光・他の土地の人がうらやむ環境』などにも共感が集まりました。

第１回ワークショップ検討結果（A 班）

大磯町の良いところを町外の人に自慢するとしたら

（案外知られていないもの、気付いていないけど実はすごいもの、もっと活用できそうなものなども含め）

人

- 人が優しい
- 大磯愛のある人が多い
- ガイドさんが多い
- 移住する人が増えている

町内 ●●

- 目的地までの距離感が近い
- ちょうどいい規模
- 町のサイズ ●●
- 程よい混雑

建物

- 旧別荘が多くある
- 明治の建築物が多い
- 日本最初の海水浴場がある
- 昭和レトロがある

海 ●

- 紺碧の海が美しい
- 海が見えていい気分
- 夏は涼しく冬は温暖
- 環境がいい
- アオバトが来る
- 気候が良い ●

食べ物 ●●●●●●

- 野菜が美味しい
- こだわりの飲食店が多い
- 食品鮮度がある
- ちょいちょい店がある（なくならないでほしい）
- 生しらす

山

- ダイヤモンド富士が見れる
- 一国から見る富士山がきれい ●
- 緑が豊か
- 松並木が美しい
- 湘南の海を一望出来る
- みかん畑から見る富士山が美しい

駅 ●●●●

- 駅前の雰囲気が良い
- 駅前が静か
- 大磯駅の雰囲気が素晴らしい
- 都内まで通勤する時座れる（電車）
- 東京まで1時間
- ギリ東京にも通勤出来る ●

歴史 ●

- 歴代（8名）総理大臣が住んでいた
- 多くの政財界人を出している ●
- 文豪が多い

祭り

- 祭りが実がすごい
- 神社の祭りが多い
- 大磯市

教育・スポーツ ●●●

- 健康麻雀がある
- S級指導者等、有資格者が多い
- 女子高校サッカー全国優勝チームがいる
- サッカーの有資格者、指導者が多い

※赤丸は共感する意見に１人３枚ずつ貼っていただいたシールを示す

第１回ワークショップ検討結果（Ｂ班）

大磯町の良いところを町外の人に自慢するとしたら

（案外知られていないもの、気付いていないけど実はすごいもの、もっと活用できそうなものなども含め）

住みやすさ

- 運動公園をもっと活用できる
- 住みやすい町 ●
- 治安が良い
- 閑静な住宅地
- 幼・小・中、IT関係利用
- 混雑しない
- 程良い小ささ
- 静か
- 派手な企業広告がない ●
- 社会的に活躍されている人が住んでいる
- 冬はそんなに寒くない

自然

- 自然が多い
- 気候が良い
- 海に浜も岩場もある ●
- 海が近い
- 海と山両方楽しめる ●
- 緑が多い
- 野鳥が見られる
- 自然が良い
- 空が広い（駅のホーム、一号線、海、山からも）
- ランニングに最適
- 食べ物が美味しい（農産物、魚、米）
- 花火大会がアットホーム

交通

- 東京にも通える田舎
- 東海道線がすいている
- 都心にも通える程よい田舎 ●●●●●

歴史

- 歴史が古い
- 歴史的建造物が多い
- 大磯駅の駅舎が好き ●
- 歴史上の人物との関わり
- 町の人達が町の歴史に誇りを持っている

第１回ワークショップ検討結果（Ｃ班）

大磯町の良いところを町外の人に自慢するとしたら

（案外知られていないもの、気付いていないけど実はすごいもの、もっと活用できそうなものなども含め）

町の人に関すること

- 一人一人の町民力が高い ●●●
- 高齢の方が元気、いっぱい教えてもらえる
- お互い譲り合える気持ちのゆとり
- ご近所付き合いが良い意味で深い
- 暮らしやすい、自分らしくいられる、みなさん優しい
- のんびり、ゆったり暮らせる
- 町外からの移住者に対して寛大なところ

自然に関すること ●●

- 「空気」につきるのでは ●
- アオバトがやってくる
- 田舎
- 野鳥がたくさんいる、カラスが頭が良い
- 自然に触れ合える、公園よりも良い
- 穏やかな天然自然で天災が少ない ●
- 相模湾の真ん中 ●
- 子ども達が自然の探索が出来る

町の役場に関すること ●

- 町職員の方が町民の意見を聞く時間を作ってくれる ●
- スモールサイズの人口によるゆったりさ
- 規模は小さくても自前の消防や警察があるところ
- 健康を守る、町の指導がとても良い
- おあしすの方達の活動、こゆるぎ体操
- ゴミの分別がしっかりしているところ
- 権威を押し付けられない

暮らしに関すること

- 駅が橋上駅でない
- 大都市にアクセスが良い
- 東京まで1時間、通勤・仕事可 ●
- 箱物が少ない（大ビル） ●●
- 町内の道路では交通事故が少ない
- 個人商店が多いところ ●●

観光・他の土地の人がうらやむ環境 ●●

- お祭りが残っている、地域の人が残していきたいと思っている
- 釣り人がたくさんいる、観光に来てくれる人がいる
- 明治の偉い人が住んだ歴史
- 歴史を感じる建物が多い

（２）第２回　第五次総合計画策定に係るワークショップの実施と結果の概要

①実施概要

日　　時　　令和元年 10 月 20 日（日）　10:00～12:00

場　　所　　大磯町役場本庁舎　４階　第１会議室

参加者数　　８名

②第２回ワークショップのタイムスケジュール

	項　目	時間
1	受付開始	9:45 ～ 10:00
2	あいさつ	10:00 ～ 10:05
3	第１回ワークショップのまとめと第２回ワークショップの進め方	10:05 ～ 10:15
4	各グループに分かれてワークショップの開始 ●ホストを決める ●テーマは、大磯町がこんなまちになってほしい	10:15 ～ 10:45
5	メンバーチェンジ 　ホストを残して各メンバーは他のグループに移動 　トイレ休憩も兼ねる	10:45 ～ 10:55
6	メンバーを違えた中で、各グループのワークショップを開始	10:55 ～ 11:15
7	メンバーは元の席に戻り、再びワークショップを開始	11:15 ～ 11:30
8	各グループごとに発表	11:30 ～ 11:45
9	同感と思う表題にシールを貼る	11:45 ～ 11:55
10	次回のワークショップの確認と終了	11:55 ～ 12:00

③第２回ワークショップのまとめ

第１回ワークショップに引き続き、大磯町第五次総合計画策定のための第２回ワークショップが 10 月 20 日（日）に開催されました。最初に、事務局より第１回ワークショップの開催状況と結果のまとめについて説明が行われ、実際のワークショップへと入りました。

第２回ワークショップでは、A・B の２班に分かれて「自分の目指したいまちをイメージする」をテーマに話し合いを進め、目指したいまちのイメージをフセンに記入をしながら模造紙に貼り出していきました。

その後、記入したフセンについて内容が似たものをグルーピングし、最終的には各グループによる話し合いの結果を発表していただきました。

各グループの結果の概要は以下の通りです。

【検討結果の概要】

「A 班」

- Ａ班では、まず「高齢者」や「子育て世代」が暮らしやすいまち、「手助け」などに関連するキーワードが目指したいまちのイメージとしてあげられました。また、「生活環境」「災害」についても今後の課題につながる多くのイメージが共有されました。さらに「今あるものを大事にする、活かす」ということで、祭りや伝統文化の継承、空き家の活用などのキーワードのほか、「ちょっと立ち寄れる居場所」がほしい、「魅力のある町」として景観や町並みを守ることや、町民出資のコミュニティビジネスの可能性についても提案・意見がありました。
- 特に「コミュニティビジネス」に共感の声が多く集まり、「大磯に行けば、また行こうと思える何か」「あるものを大事にする」などにも共感が集まりました。

「B 班」

- Ｂ班では、暮らしのイメージとして「穏やかに暮らせる町」「風通しの良い町」があげられ、特に物理的な面も含めた町と町民の風通しの良い町のイメージが共有されました。次に産業経済のイメージとして、生涯現役で働ける、若い人の働く場がある、空き家の活用、公共交通の充実等があげられ、「地元で働ける町」「観光に力を入れる町」として目指すべき町のイメージが集約されました。地域のイメージでは、治安の良い安全な町、自然との共存等のキーワードが出され、「自然と共存した安全な町」に地域の目指すべきイメージが集約されました。
- 「風通しの良い町（町と町民）」に共感の声が多く集まり、「穏やかに暮らせる町」「地元で働ける町」「自然と共存した安全な町」にも共感が集まりました。

【発表の様子】

資料１

A 班

「自分の目指したいまちをイメージする」

高齢者について
- 困っている事が言える
- 高齢者が動いて色々やってくれる
- 担い手を育てて続くまち
- 高齢者の積極的健康維持向上活動が整備されている●
- 高齢者の孤立は個人、近所だけの力では難しい、町の出る幕だ ●

手助け ●
- ちょいボラがいっぱいいる
- 困り事を出来る範囲で助けられるまち
- 住民が担いたい事、やりたいことを支援する
- （情報、意見）風通しが良い
- 「手助けがほしい」を発信できるまち

子育て世代
- 子育てを適切に支援される場と交流
- 総合的子育てシステムを創出する時期か ●
- 帰ってこられるまち（子ども、若者）
- 20代、30代の転出が減る、止まる
- 20代～40代の職場と増やすには？ ●

災害
- カラス危険の看板が春にほしいです
- 気候が荒々しくなってきている、防災を見直し課題を抽出する必要がありそう

生活環境
- 消えた道路の白線、サビた陸橋、草の生えた陸橋●
- 整備された山の遊歩道のあるまち
- 生活の道（安全、草、松）
- 環境を整備する。道路、白線しっかり見えるように。歩道を邪魔している立橋を取り去る
- 普通しかとまらないのがイヤ！
- 町と町民の連絡方法がわからない
- 生活道路見直し、こわれたまま
- 草の整備（道路、空き地） ●

今あるものを大事にする、活かす
- あるものを大事にする● ●
- （町だから）手助けできる
- 町の担当は個々の町人に「聴きに行く」を当たり前にしよう。全員で30，000人 ●
- もう少し良くする（いろんなこと）
- お祭りの継承。宗教面の扱いは慎重に、しかし地域の伝統と継承文化を途絶えさせない工夫 ●
- みんなで作っていくお祭りの形
- 古屋の町の対応は？若い人に住んでもらうのは？
- 空き家の活用

みんなが参加出来るイベント・仕事
- ヨガ
- まち全体が歩ける観光地のようなまち●

ちょっと立ち寄れる居場所 ●
- コーヒーショップ的な店
- 休憩、一休みできる所がある
- 犬と一緒に行けるところがある（公園、店）
- 散歩して休める所がある
- スタバ等いらない、個人商店を利用して欲しい
- ちょっとメジャーなコーヒーショップが来て欲しい

魅力のある町
- 町のふんいき、景観を守る●
- 「大磯に行けば」「また行こう」と思える何か ●●●
- 街並みがギャラリーになる（うらみち）● ●
- 裏道通り（知られたくないくらいいい） ●

高齢者、子育て世代の支援・仕事・集まる場 ● ●
- コミュニティビジネス（町民出資）●●●●●●●●●●●●
- 人材・得意技を集めて活かす仕組み

※赤丸は共感する意見に１人6枚ずつ貼っていただいたシールを示す

※黄色は班ごとに記入したフセン、青色は席替え後の席で記入したフセン

B班

「自分の目指したいまちをイメージする」

＜暮らしのイメージ＞

穏やかに暮らせる町 ● ●

- 税金が安い ●
- 子育てしやすい
- 散歩がしやすい

風通しの良い町（町と町民） ● ● ●

- カーブミラーを願っていました。やっとつけていただき、すごく見やすくなりました。
- 人と人が協力できる町
- 風通しの良い町

＜産業経済のイメージ＞

地元で働ける町 ● ●

- 生涯現役で働ける、若い人が働く場がある。
- シャッターが閉まっていると（通りに）さみしい町に見える。人を呼びこめる街。駅（郵便局）の道から海に行くところに洋服屋さんができていいな。道にお店を。

観光に力を入れる町 ●

- 銭湯、海が見える ●
- 左義長は個人観光のテーマになるぞ、宿泊等工夫がいる ●
- 空き家を民泊に
- 今どこでも問題になっている空き家を何かに！
- お金を落としてもらえるお店を作ろう！
- 観光案内、バスや公共の乗り物の充実
- 安全な食べ物、地元の食材を使った店がある

＜地域のイメージ＞

自然と共存した安全な町 ● ●

- 治安が良い安全な町
- 自然との共存
- 歴史を感じられる町であってほしい
- 山あい、街中、散歩にとても楽しい道が一杯ある
- 街灯を増やすことで安全に
- 時折素晴らしい夕焼け空が

（３）第３回　第五次総合計画策定に係るワークショップの実施と結果の概要

①実施概要

日　　時　　令和元年 11 月３日（日）　10:00～12:00

場　　所　　大磯町保健センター　２階研修室

参加者数　　12 名

②第３回ワークショップのタイムスケジュール

	項　目	時間
1	受付開始	9:45 ～ 10:00
2	あいさつ	10:00 ～ 10:05
3	第２回ワークショップのまとめと第３回ワークショップの進め方	10:05 ～ 10:15
4	各グループに分かれてワークショップの開始 ●第２回ワークショップでいただいた意見の再整理	10:15 ～ 10:30
5	●「目指すまちのイメージ」に対応した「課題」	10:30 ～ 11:05
6	トイレ休憩	11:05 ～ 11:10
7	グループの入れ替わり、再びワークショップ開始	11:10 ～ 11:45
8	同感と思う表題にシールを貼る	11:45 ～ 11:55
9	次回のワークショップの確認と終了	11:55 ～ 12:00

③第３回ワークショップのまとめ

大磯町第五次総合計画策定のための第３回ワークショップが 11 月３日（日）に開催されました。最初に、事務局より第２回ワークショップの開催状況と結果のまとめについて説明が行われ、実際のワークショップへと入りました。

第３回ワークショップでは、第２回ワークショップであげられた「自分の目指したいまちのイメージ」を大きく７つの方向性として集約し、主に目指したいまちのイメージを実現するための「課題」について議論していただきました。集約した７つの目指したいまちのイメージは以下の通りです。

【目指したいまちのイメージ】

1	今あるものを大事にする、活かす
	生活環境
2	魅力のある町
	ちょっと立ち寄れる居場所
3	大磯らしい観光
4	地元で働ける町
5	風通しの良い町（町と町民）
	穏やかに暮らせる町
6	みんなが参加できるイベント・仕事のある町
	高齢者、子育て世代の支援・仕事・集まる場
	手助け
	子育て世代
	高齢者について
7	自然と共存した安全な町
	災害に負けない町

○目指したいまちのイメージ　1

「今あるものを大事にする、活かす」「生活環境」

課　題	解決の手立て
空き家の活用 ●●●	空き家を民泊に
古いお店が残るように何か方法	空き家バンクの応用（MAPは？）
空き家を民泊に	
今どこでも問題になっている空き家を何かに！	文化財への補助金
有形無形文化財 ●●●	街灯を増やすことで安全に
歴史的建物の保存	道路の整備（道の雑草取り）
お祭りの継承。宗教面の扱いは慎重に、しかし地域の伝統と継承文化を途絶えさせない工夫	コミュニティバスの運行
草の整備（道路、空き地）●	予約、バス、タクシーを使う
生活の道（安全、草、松）	
消えた道路の白線、サビた陸橋、草の生えた陸橋 ●	
食品スーパーが少ない	
町の雰囲気、景観を守る	
古屋の町の対応は？若い人に住んでもらうのは？	
歴史を感じられる町であってほしい	
港に商業施設はいらない	
安全な食べ物地元の食材を使った店がある	
整備された山の遊歩道のあるまち●	
バスや公共の乗り物の充実 ●●	

※赤丸は第2回ワークショップ、緑丸は第3回ワークショップの共感シールです。

○目指したいまちのイメージ　２

「魅力のある町」「ちょっと立ち寄れる居場所」

課　題	解決の手立て
風通しの良い町 ●	環境を整備する。道路、白線しっかり見えるように。歩道を邪魔している立橋を取り去る
シャッターが閉まっていると（通りに）さみしい町に見える。	
散歩して休める所がある ●●	café（おしゃれ）
休憩、一休みできる所がある	町民が気軽につぶやけるSNSを作る
散歩がしやすい	町民への広報の充実
↓	地域コミュニティを活性化する
散歩して一休みできる所がない ●	遊歩道の整備（H/S）
町の担当は個々の町人に「聴きに行く」●を当たり前にしよう。全員で30，000人 ●	部分的な町民への業務委託
山あい、街中、散歩にとても楽しい道が一杯ある	
「大磯に行けば」「また行こう」と思える何か ●●●	
今あるものを大切にするまち	
今あるものを再検討	
町の財政の改善 ●	

町民と役場のコラボ ●

○目指したいまちのイメージ　３

「大磯らしい観光」

課　題

左義長は個人観光のテーマになるぞ、宿泊等工夫がいる ●

（スーパー）銭湯、海が見えるがあると良い ●

お金を落としてもらえるお店を作ろう！

人を呼びこめる街

駅舎内にベンチが少ない（椅子が3つしかない） ● ●

駅前が集合場所が集中していて通りづらい

周辺施設がたりない（駐車場、店、宿泊）

静かな観光を目指す ● ● ●

街並みがギャラリーになる（うらみち）●

裏道通り（知られたくないくらいいい）

町民の暮らしを守った上での観光

人が来すぎても困る ● ● ● ● ● ●

大磯の良さ（しずか、ゆったり）を味わって下さい、観光 ●

まち全体がゆっくり歩ける観光地のようなまち ●

↓

キャッチフレーズ、共有イメージがない

観光の取り組み方針が町と住民で共有できていない ●

解決の手立て

おすすめスポットの紹介

観光業者等との連携を深める

観光マップ配布再検討

民泊のすすめ

待ち合わせ場所（駅）の整備をしてほしい

観光の取り組み方針の広報を強化

キャッチフレーズのコンクール

○目指したいまちのイメージ　４

「地元で働ける町」

課　題

生涯現役で働ける

若い人が働く場がある。

駅（郵便局）の道から海に行くところに洋服屋さんができていいな。道にお店を。

コミュニティビジネス（町民出資）●●●●●●●

コーヒーショップ的な店●

人材・得意技を集めて活かす仕組み●●●●●●

税金が安い●●

20代～40代の職場を増やすには？●●●

シャッターの閉まっている店が多い

住民が発信するツールがない●

どういう人材がいるかわからない

かかわるきっかけがない●

コミュニティビジネスを始める仕組みがない●

町と町民の協力●

解決の手立て

町民主体のコミュニティビジネスセンター（町の駅みたいな）●●

人材センター（特技、年齢等含む）を作る●●

役場の協力

企業誘致（SOHO、リモートオフィス等）

自然環境を大切にする企業の誘致●

町づくり推進委員会を作る

小商いができる場所を増やす

○目指したいまちのイメージ　５

「風通しの良い町（町と町民）」「穏やかに暮らせる町」

課　題	解決の手立て
豊かな町 環境整備● 協力して繋がれる町 風通しの良い町＝町政● つながる気持ち （町だから）手助けできる （情報、意見）風通しが良い もう少し良くする（いろんなこと） 地元町民と新規住民の交流● 困りごとを出来る範囲で助けられるまち あいさつができる町 生活の知恵をもらう 世代間の交流 ダイバーシティ 帰ってこられるまち（子ども、若者） 困っていることがいえる 高齢者の孤立は個人、近所だけの力では難しい、町の出る幕だ● ↓ 保健師等の地域への活動にでてきてほしい 町と町民の連絡方法がわからない●● 町役場が考えている事がわからない、住民に伝わらない 町民が参加できる場が少ない●● 気運が足りない 活動するグループがない● 自分たちで出来る事を考えないと	町の活動の広報力の強化

○目指したいまちのイメージ　６

「みんなが参加できるイベント・仕事のある町」「高齢者、子育て世代の支援･仕事･集まる場」「手助け」「子育て世代」「高齢者について」

課　題	解決の手立て
20代、30代の転出が減る、止まる	ボランティア団体をまとめる団体を作る
町民自治の活動	ボランティアの組織作り ●●
人と人が協力できる町	町民が運営するショップ
担い手を育てて続くまち ●	健康増進プログラムを増やす（場所）
子育てを適切に支援される場と交流	第2のシルバー人材センターを作る
高齢者が動いて色々やってくれる	総合的子育てシステムを創出する ●
「手助けがほしい」を発信できるまち ●	高齢者支援隊（見守り、買い物など）
高齢者の積極的健康維持向上活動が整備されている（もっと） ●●	
住民が担いたい事、やりたいことを支援する	

○目指したいまちのイメージ　7

「自然と共存した安全な町」「災害に負けない町」

課　題	解決の手立て
山、海を整備する、ゴミ等なくす あるものを大事にする ●●● 時折素晴らしい夕焼け空が 町に電灯がない ● 治安が良い 安全な町 歩道がせまい 生活道路見直し、こわれたまま カーブミラーを願っていました。やっとつけていただき、すごく見やすくなりました。 カラス危険の看板が春にほしいです 災害に負けないで自然と共存できるまち ●● 町の仕事 ● 気候が荒々しくなってきている、防災を見直し課題を抽出する必要がありそう ● 避難場所、体育館で良いのか 町民からの情報（自然災害など）を受け付けるツール、セクションがほしい 支援の必要な人の把握 支援の必要な人とボラを結びつけるシステムの必要 ●●● コミュニティーがある お互いの顔がわかるまち みんなで作っていくお祭りの形 犬と一緒に行けるところがある（公園、店） 自然を活かすスポーツ事業 ヨガ 町のイベント　ヨガ等 ちょいボラがいっぱいいる ● 後継者問題の解決が必要 荒れた山を整備する人がいない 古くからの銘店の跡継ぎがいない ●	環境整備のためのグループ作り ボランティアセンターの創設 ●●●

（４）第４回　第五次総合計画策定に係るワークショップの実施と結果の概要

①実施概要

日　　時　　令和元年 11 月 17 日（日）　10:00～12:00

場　　所　　大磯町役場本庁舎　４階　第１会議室

参加者数　　13 名

②第４回ワークショップのタイムスケジュール

	項　目	時間
1	受付開始	9:45 ～ 10:00
2	あいさつ	10:00 ～ 10:05
3	第３回ワークショップのまとめと第４回ワークショップの進め方 「目指すまちのイメージ」ごとにホストを決める	10:05 ～ 10:10
4	Ａ・Ｂのグループに分かれてワークショップの開始 ●７つの「目指したいまちのイメージ」ごとの「大きな課題」に対し、「課題を解決するための手立ては何か」	10:10 ～ 11:45
5	同感と思うものにシールを貼る	11:45 ～ 11:55
6	終了にあたってのごあいさつと今後のお願い	12:00 ～ 12:05

③第４回ワークショップのまとめ

大磯町第五次総合計画策定のための第４回ワークショップが 11 月 17 日（日）に開催されました。最初に、事務局より第３回ワークショップの開催状況と結果のまとめについて説明が行われ、実際のワークショップへと入りました。

第４回ワークショップでは、第３回で集約した７つの「目指すまちのイメージ」ごとに、「課題を解決するための手立ては何か」について議論していただきました。

【目指したいまちのイメージ】

1	今あるものを大事にする、活かす町
2	ちょっと立ち寄れる居場所、魅力のある町
3	大磯らしい観光を発信する町
4	地元で働ける町
5	誰もが風通し良く暮らせる町
6	子育てや高齢者に優しい手助けのある町
7	自然と共存した安心・安全な町

④７つの目指したいまちのイメージ　テーマ別「課題」「課題を解決するための手立て」

※●（緑）は第3回、●（赤）は第4回の共感シール

1　今あるものを大事にする、活かす町

ア．空き家の活用

○課題

・空き家の活用
・今どこでも問題になっている空き家を何かに！
・古屋の町の対応は？若い人に住んでもらうのは？

★課題解決のための手立て

・住居状況ネットワークを作る●
・空き家を民泊に
・空き家バンクの応用（ＭＡＰは？）●●●

イ．買い物の場の充実

○課題

・古いお店が残るように何か方法
・食品スーパーが少ない
・港に商業施設はいらない
・安全な食べ物　地元の食材を使った店がある

★課題解決のための手立て

・外国人も含め町内に今ある事業を継続するため移住者を増やす●●
・大磯観光大使館構想●●●●●
・後継者ネットワーク、人材発掘●
・事業継承の担当を町におく

ウ．歴史・景観の保全、お祭りの継承

○課題

・有形無形文化財
・歴史的建物の保存
・歴史を感じられる町であってほしい
・町の雰囲気、景観を守る
・お祭りの継承。宗教面の扱いは慎重に、しかし地域の伝統と継承文化を途絶えさせない工夫

★課題解決のための手立て

・文化財への補助金
・明治以前の地元の文化の維持、掘り起こし！●
→マップ
→近所のサポートグループの育成

エ．道路環境の整備

○課題

・草の整備（道路、空き地）
・生活の道（安全、草、松）
・消えた道路の白線、サビた陸橋、草の生えた陸橋
・整備された山の遊歩道のあるまち

★課題解決のための手立て

・道路の整備（道の雑草取り）
・街灯を増やすことで安全に
・危険なところを町場に知らせる仕組みをつくる
→ごみ拾いとかしながら

オ．公共交通の整備

○課題

・バスや公共の乗り物の充実

★課題解決のための手立て

・コミュニティバスの運行●●
・予約、バス、タクシーを使う
・Small 支援の乗り物を用意する

2　ちょっと立ち寄れる居場所、魅力のある町

ア．散歩・遊歩道の整備

○課題

・風通しの良い町
・散歩して休める所がある
・休憩、一休みできる所がある
・散歩がしやすい
・散歩して一休みできる所がない
・山あい、街中、散歩にとても楽しい道が一杯ある

★課題解決のための手立て

・環境を整備する。道路、白線しっかり見えるように。歩道を邪魔している立橋を取り去る
・遊歩道の整備（H/S）

イ．立ち寄れる場の充実

○課題

・シャッターが閉まっていると（通りに）さみしい町に見える。

★課題解決のための手立て

・町役場のホールなど、町民が立ち寄れる工夫を。
・駅前に人が集まれる場所●
・café（おしゃれ）
・だれでも立ち寄れるコミュニティスペースをつくる●●●●●●●
・公民館を開放する
・交替でカギ係
・好きな時にいけるちょっとお茶飲める場所
・空き家の活用●●●

ウ．今ある資源を磨く・発信する

○課題

・今あるものを大切にするまち
・今あるものを再検討
・「大磯に行けば」「また行こう」と思える何か
・町の担当は個々の町人に「聴きに行く」を当たり前にしよう。全員で 30,000 人

★課題解決のための手立て

・地域コミュニティを活性化する
・町民が気軽につぶやけるＳＮＳを作る
・町民への広報の充実

エ．財政の改善

○課題

・町の財政の改善

★課題解決のための手立て

・部分的な町民への業務委託
・町民と役場のコラボ●
・ふるさと納税、コミュニティバンク●●●●●●
・町職員の育成●

３　大磯らしい観光を発信する町

ア．観光客の受け入れ態勢整備

○課題

・人を呼びこめる街
・左義長は個人観光のテーマになるぞ、宿泊等工夫がいる
・駅舎内にベンチが少ない（椅子が３つしかない）
・駅前が集合場所が集中していて通りづらい
・周辺施設がたりない（駐車場、店、宿泊）
・（スーパー）銭湯、海が見えるがあると良い
・お金を落としてもらえるお店を作ろう！

★課題解決のための手立て

・大磯に関心ある人、２・３度くる人
・おすすめスポットの紹介
・観光業者等との連携を深める
・観光マップ配布再検討
・観光施設･場所にゴミ箱設置
・民泊のすすめ
・待ち合わせ場所（駅）の整備をしてほしい
・観光案内所の裏にプチ広場をつくる●
・人を呼べる個性的なちょっと有名店の出店希望、国道沿い
・大磯にいる時間を長くさせる様なお店
・大磯プリンスの活用。広場活用

イ．町並みを活かした観光

○課題

・街並みがギャラリーになる（うらみち）
・裏道通り（知られたくないくらいいい）
・まち全体がゆっくり歩ける観光地のようなまち

★課題解決のための手立て

・さんぽ道観光●●●●
・周遊観光(別荘めぐり)
→公開(有料でいい）してもらう
・郷土資料館にカフェ、休憩所

ウ．暮らしと観光の両立

○課題

・大磯の良さ（しずか、ゆったり）を味わって下さい、観光
・静かな観光を目指す
・町民の暮らしを守った上での観光
・人が来すぎても困る

★課題解決のための手立て

・うつわの日のアピール
・お魚屋さんの復活を！！
・オープンガーデン
・文化施設的な

エ．観光方針の共有化

○課題

・キャッチフレーズ、共有イメージがない
・観光の取り組み方針が町と住民で共有できていない

★課題解決のための手立て

・町役場が電話と Fax、〒での通信コミュニケーションを脱する●
・キャッチフレーズのコンクール
・観光の取り組み方針の広報を強化
・商工会など町の有力団体も参加したコミュニケーションを
・町民割引の日の周知

4　地元で働ける町

ア．コミュニティビジネスが生まれる仕組みづくり

○課題

・コミュニティビジネス（町民出資）
・コミュニティビジネスを始める仕組みがない
・人材・得意技を集めて活かす仕組み
・生涯現役で働ける

★課題解決のための手立て

・町民主体のコミュニティビジネスセンター（町の駅みたいな）●●
・人材センター（特技、年齢等含む）を作る●●
・町内会館の活用の幅を広げる（コミュニティビジネスで）
・できることを売り込む掲示板、自己責任で
・求人と売り込みの場を作ってほしい

イ．担い手の発掘・情報発信

○課題

・どういう人材がいるかわからない
・かかわるきっかけがない
・住民が発信するツールがない
・町と町民の協力

★課題解決のための手立て

・役場の協力
・町づくり推進委員会を作る
・人材ネットワークを作る●●●●●●
・ワークショップをくり返す
・リーダーをつくって
・いい企画→やってみる

ウ．商業の活性化

○課題

・駅（郵便局）の道から海に行くところに洋服屋さんができていいな。道にお店を。
・コーヒーショップ的な店
・シャッターの閉まっている店が多い

★課題解決のための手立て

・小商いができる場所を増やす●
・事業継承をする新たな人材を呼び込む

エ．働く場の確保

○課題

・若い人が働く場がある。
・20 代～40 代の職場と増やすには？
・税金が安い

★課題解決のための手立て

・企業誘致（ＳＯＨＯ、リモートオフィス等）
・自然環境を大切にする企業の誘致●
・空き家をサテライトオフィスに利用
・ある程度の規模の企業(製造業とか)は必要、広域連携も含め
・ものつくらない会社の誘致（IT、コールセンター、デザイン）●●●●●

5　誰もが風通し良く暮らせる町

ア．風通しの良い町

○課題

・風通しの良い町＝町政
・協力して繋がれる町
・つながる気持ち
・（町だから）手助けできる
・（情報、意見）風通しが良い
・もう少し良くする（いろんなこと）
・豊かな町
・環境整備
・予算がないという､使い方がおかしい？
・座談会があっても町政につながらない
・座談会があっても共有されていない

★課題解決のための手立て

・座談会の内容をシェアする場が必要
・観光地場所にゴミ箱(駅ホームのゴミ箱あふれている）●
・利用施設の利用仕方の簡素化。インターネット、スマホ etc 申し込み可。いつでも話し合える場所
・平成目安箱のやり方を拡充する

イ．新旧・世代間の交流の促進

○課題

・地元町民と新規住民の交流
・あいさつができる町
・生活の知恵をもらう
・世代間の交流
・ダイバーシティ
・帰ってこられるまち（子ども、若者）
・困り事を出来る範囲で助けられるまち

★課題解決のための手立て

・フリーなコミュニティの場をつくる（タウンカフェ）●
→ICT（Wi-Fi 等）インフラを充実させる●●●●
→空き家利用
・町民のたまり場作る。行政は遠目で､管理しすぎない●
・子どもの頃から話し合う場をつくる●
・若い世代の意見が出せるようにする●●

ウ．町事業・活動の周知

○課題

・困っている事が言える
・高齢者の孤立は個人、近所だけの力では難しい、町の出る幕だ
・町と町民の連絡方法がわからない
・町役場が考えている事がわからない、住民に伝わらない
・保健師等の地域への活動にでてきてほしい

★課題解決のための手立て

・町の活動の広報力の強化
・町役場に「すぐやる課」を作る●●●
→ワンストップ！、ふりわける
・こまり事があつまるところをつくる●
・困り事を相談する部署を案内する一覧表（ゴミの分別表のような）
・ワークショップの日程　町関係主催の大切な会議と重複
→皆が集まりやすい調整を。

エ．地域活動の活性化

○課題

・町民が参加できる場が少ない
・気運が足りない
・活動するグループがない
・自分たちで出来る事を考えないと

★課題解決のための手立て

・駅前に休憩所、観光案内所がある場所、コミュニティ●●●●
・NPO､ソーシャルワーカーをバックアップする

6　子育てや高齢者に優しい手助けのある町

ア．子育て世代の支援充実

○課題

・子育てを適切に支援される場と交流
・20 代、30 代の転出が減る、止まる

★課題解決のための手立て

・読み聞かせ活動を充実させる
・子育てネットワークを作る
・総合的子育てシステムを創出する●●
・待機児童対策の実現　未就学●
→学童の支援員をふやす、支援する●●

→学童と放課後子ども教室を共用
・町民が運営するショップ
・短時間地元で働ける場をつくる

イ．高齢者支援の充実

○課題

・高齢者の積極的健康維持向上活動が整備されている（もっと）

★課題解決のための手立て

・健康増進プログラム（場所）を増やす
・高齢者支援隊（見守り、買い物など）
・政策の洗い直しをして町民を大事にする体制に●
・楽しくすごせる場を増やす（元気で暮らし続ける）
・認知症カフェをつくる
・福祉に向いた優秀な人材を確保する
・福祉の担い手を大事にするための支援
・介護福祉の事業の支援、大切にしてほしい

ウ．手助けの体制整備

○課題

・町民自治の活動
・人と人が協力できる町
・「手助けがほしい」を発信できるまち
・担い手を育てて続くまち
・高齢者が動いて色々やってくれる
・住民が担いたい事、やりたいことを支援する

★課題解決のための手立て

・第２のシルバー人材センターを作る●
・シルバー人材センターのやれることを増やす
・高齢者を支える担い手として育てる
・町の事務等人手が足りないところを手伝ってもらう
・ボランティア団体をまとめる団体をつくる
・ボランティアの組織づくり●●
・困り事ネットワークの作成
・やれる事、考えられる事がある人のネットワーク
・町とつながりを持って動く人を増やす、集める●
・ワークショップをくり返して発掘する●

7　自然と共存した安心・安全な町

ア．自然との共存

○課題

・山、海を整備する、ゴミ等なくす
・あるものを大事にする
・カラス危険の看板が春にほしいです
・時折素晴らしい夕焼け空が

★課題解決のための手立て

・不用、要の土地放棄できるルールがほしい（国）
・環境整備のためのグループ作り
・バイオマスで発電●●

イ．自然を活かしたイベントやスポーツ等の推進

○課題

・自然を活かすスポーツ事業
・ヨガ
・町のイベント　ヨガ等
・ちょいボラがいっぱいいる
・犬と一緒に行けるところがある（公園、店）
・みんなで作っていくお祭りの形

★課題解決のための手立て

・安全な町、おだやかな街だという印象をやんわりと伝えたい●
・道路や山の整備、活用の参加を募ってほしい

ウ．防災体制の整備

○課題

・災害に負けないで自然と共存できるまち
・町の仕事
・気候が荒々しくなってきている、防災を見直し課題を抽出する必要がありそう
・避難場所、体育館で良いのか
・町民からの情報（自然災害など）を受け付けるツール、セクションがほしい

★課題解決のための手立て

・住んでみなけりゃ分からない
・駅前や路地、狭いところを住民のゆずり合い成功しているこのままで
・人が集合できる場所、休憩所を作る（駅前）
・お金を使ったキャンペーンはダメ。ブームの後は…

エ．支え合いの体制整備

○課題

・支援の必要な人の把握
・支援の必要な人とボラを結びつけるシステムの必要
・コミュニティがある
・お互いの顔がわかるまち

★課題解決のための手立て

・あいさつ運動
・見覚えのある人に出会える規模のやさしい町●
・ボランティアセンターの創設●●●

オ．安心・安全な環境整備

○課題

・町に電灯がない
・治安が良い
・安全な町
・歩道がせまい
・生活道路見直し、こわれたまま
・カーブミラーを願っていました。やっとつけていただき、すごく見やすくなりました。

★課題解決のための手立て

・門戸活動（LED･太陽灯）もっとふやす
・困り事がすぐつながる
・地区によってちがうことを認識しあう

カ．後継者問題

○課題

・後継者問題の解決が必要
・荒れた山を整備する人がいない
・古くからの銘店の跡継ぎがいない

★課題解決のための手立て

・町の役割として銀行と協力して事業継承を活性化する
・町内･地区内で注文する
→地産地消、宣伝
・伝承プログラムをつくる
・逸品会の活動を支援

目指したいまちのイメージ	課題をグループ化	大きな課題	課題を解決するための手立ては何か
今あるものを大事にする、活かす町	・空き家の活用 ・今どこでも問題になっている空き家を何かに！ ・古屋の町の対応は？若い人に住んでもらうのは？	空き家の活用	・住居状況ネットワークを作る ・空き家を民泊に ・空き家バンクの応用（MAPは？）
	・古いお店が残るように何か方法 ・食品スーパーが少ない ・港に商業施設はいらない ・安全な食べ物　地元の食材を使った店がある	買い物の場の充実	・外国人も含め町内に今ある事業を継続するため移住者を増やす ・大磯観光大使館構想 ・後継者ネットワーク、人材発掘 ・事業継承の担当を町におく
	・有形無形文化財 ・歴史的建物の保存 ・歴史を感じられる町であってほしい ・町の雰囲気、景観を守る	歴史・景観の保全	・文化財への補助金 ・明治以前の地元の文化の維持、掘り起こし！ →マップ →近所のサポートグループの育成
	・お祭りの継承。宗教面の扱いは慎重に、しかし地域の伝統と継承文化を途絶えさせない工夫	お祭りの継承	
	・草の整備（道路、空き地） ・生活の道（安全、草、松） ・消えた道路の白線、サビた陸橋、草の生えた陸橋 ・整備された山の遊歩道のあるまち	道路環境の整備	・道路の整備（道の雑草取り） ・街灯を増やすことで安全に ・危険なところを町場に知らせる仕組みをつくる →ごみ拾いとかしながら
	・バスや公共の乗り物の充実	公共交通の整備	・コミュニティバスの運行 ・予約、バス、タクシーを使う ・Small 支援の乗り物を用意する

目指したいまちのイメージ	課題をグループ化	大きな課題	課題を解決するための手立ては何か
ちょっと立ち寄れる居場所、魅力のある町	・風通しの良い町 ・散歩して休める所がある ・休憩、一休みできる所がある ・散歩がしやすい ・散歩して一休みできる所がない ・山あい、街中、散歩にとても楽しい道が一杯ある	散歩・遊歩道の整備	・環境を整備する。道路、白線しっかり見えるように。歩道を邪魔している立橋を取り去る ・遊歩道の整備（H/S）
	・シャッターが閉まっていると（通りに）さみしい町に見える。	立ち寄れる場の充実	・町役場のホールなど、町民が立ち寄れる工夫を。 ・駅前に人が集まれる場所 ・café（おしゃれ） ・だれでも立ち寄れるコミュニティスペースをつくる ・公民館を開放する ・交替でカギ係 ・好きな時にいけるちょっとお茶飲める場所 ・空き家の活用
	・今あるものを大切にするまち ・今あるものを再検討 ・「大磯に行けば」「また行こう」と思える何か ・町の担当は個々の町人に「聴きに行く」を当たり前にしよう。全員で30，000人	今ある資源を磨く・発信する	・地域コミュニティを活性化する ・町民が気軽につぶやけるSNSを作る ・町民への広報の充実
	・町の財政の改善	財政の改善	・部分的な町民への業務委託 ・町民と役場のコラボ ・ふるさと納税、コミュニティバンク ・町職員の育成

目指したいまちのイメージ	課題をグループ化	大きな課題	課題を解決するための手立ては何か
大磯らしい観光を発信する町	・人を呼びこめる街 ・左義長は個人観光のテーマになるぞ、宿泊等工夫がいる ・駅舎内にベンチが少ない（椅子が3つしかない） ・駅前が集合場所が集中していて通りづらい ・周辺施設がたりない（駐車場、店、宿泊） ・（スーパー）銭湯、海が見えるがあると良い ・お金を落としてもらえるお店を作ろう！	観光客の受け入れ態勢整備	・大磯に関心ある人、2・3度くる人 ・おすすめスポットの紹介 ・観光業者等との連携を深める ・観光マップ配布再検討 ・観光施設・場所にゴミ箱設置 ・民泊のすすめ ・待ち合わせ場所（駅）の整備をしてほしい ・観光案内所の裏にプチ広場をつくる ・人を呼べる個性的なちょっと有名店の出店希望、国道沿い ・大磯にいる時間を長くさせる様なお店 ・大磯プリンスの活用。広場活用
	・街並みがギャラリーになる（うらみち） ・裏道通り（知られたくないくらいいい） ・まち全体がゆっくり歩ける観光地のようなまち	町並みを活かした観光	・さんぽ道観光 ・周遊観光(別荘めぐり) →公開(有料でいい)してもらう ・郷土資料館にカフェ、休憩所
	・大磯の良さ（しずか、ゆったり）を味わって下さい、観光 ・静かな観光を目指す ・町民の暮らしを守った上での観光 ・人が来すぎても困る	暮らしと観光の両立	・うつわの日のアピール ・お魚屋さんの復活を！！ ・オープンガーデン ・文化施設的な
	・キャッチフレーズ、共有イメージがない ・観光の取り組み方針が町と住民で共有できていない	観光方針の共有化	・町役場が電話と Fax、〒での通信コミュニケーションを脱する ・キャッチフレーズのコンクール ・観光の取り組み方針の広報を強化 ・商工会など町の有力団体も参加したコミュニケーションを ・町民割引の日の周知

目指したいまちのイメージ	課題をグループ化	大きな課題	課題を解決するための手立ては何か
地元で働ける町	・コミュニティビジネス（町民出資） ・コミュニティビジネスを始める仕組みがない ・人材・得意技を集めて活かす仕組み ・生涯現役で働ける	ｺﾐｭﾆﾃｨﾋﾞｼﾞﾈｽが生まれる仕組みづくり	・町民主体のコミュニティビジネスセンター（町の駅みたいな） ・人材センター（特技、年齢等含む）を作る ・町内会館の活用の幅を広げる（コミュニティビジネスで） ・できることを売り込む掲示板、自己責任で ・求人と売り込みの場を作ってほしい
	・どういう人材がいるかわからない ・かかわるきっかけがない ・住民が発信するツールがない ・町と町民の協力	担い手の発掘・情報発信	・役場の協力 ・町づくり推進委員会を作る ・人材ネットワークを作る ・ワークショップをくり返す ・リーダーをつくって ・いい企画→やってみる
	・駅（郵便局）の道から海に行くところに洋服屋さんができていいな。道にお店を。 ・コーヒーショップ的な店 ・シャッターの閉まっている店が多い	商業の活性化	・小商いができる場所を増やす ・事業継承をする新たな人材を呼び込む
	・若い人が働く場がある。 ・20 代～40 代の職場と増やすには？ ・税金が安い	働く場の確保	・企業誘致（SOHO、リモートオフィス等） ・自然環境を大切にする企業の誘致 ・空き家をサテライトオフィスに利用 ・ある程度の規模の企業(製造業とか)は必要、広域連携も含め ・ものつくらない会社の誘致（IT、コールセンター、デザイン）

目指したいまちのイメージ	課題をグループ化	大きな課題	課題を解決するための手立ては何か
誰もが風通し良く暮らせる町	・風通しの良い町＝町政 ・協力して繋がれる町 ・つながる気持ち ・（町だから）手助けできる ・（情報、意見）風通しが良い ・もう少し良くする（いろんなこと） ・豊かな町 ・環境整備 ・予算がないという、使い方がおかしい？ ・座談会があっても町政につながらない ・座談会があっても共有されていない	風通しの良い町	・座談会の内容をシェアする場が必要 ・観光地場所にゴミ箱(駅ホームのゴミ箱あふれている) ・利用施設の利用仕方の簡素化。インターネット、スマホ etc 申し込み可。いつでも話し合える場所 ・平成目安箱のやり方を拡充する
	・地元町民と新規住民の交流 ・あいさつができる町 ・生活の知恵をもらう ・世代間の交流 ・ダイバーシティ ・帰ってこられるまち（子ども、若者） ・困り事を出来る範囲で助けられるまち	新旧・世代間の交流の促進	・フリーなコミュニティの場をつくる（タウンカフェ） →ICT（Wi-Fi 等）インフラを充実させる →空き家利用 ・町民のたまり場作る。行政は遠目で、管理しすぎない ・子どもの頃から話し合う場をつくる ・若い世代の意見が出せるようにする
	・困っている事が言える ・高齢者の孤立は個人、近所だけの力では難しい、町の出る幕だ ・町と町民の連絡方法がわからない ・町役場が考えている事がわからない、住民に伝わらない ・保健師等の地域への活動にでてきてほしい	町事業・活動の周知	・町の活動の広報力の強化 ・町役場に「すぐやる課」を作る →ワンストップ！、ふりわける ・こまり事があつまるところをつくる ・困り事を相談する部署を案内する一覧表（ゴミの分別表のような） ・ワークショップの日程　町関係主催の大切な会議と重複 →皆が集まりやすい調整を。
	・町民が参加できる場が少ない ・気運が足りない ・活動するグループがない ・自分たちで出来る事を考えないと	地域活動の活性化	・駅前に休憩所、観光案内所がある場所、コミュニティー ・NPO、ソーシャルワーカーをバックアップする

目指したいまちのイメージ	課題をグループ化	大きな課題	課題を解決するための手立ては何か
子育てや高齢者に優しい手助けのある町	・子育てを適切に支援される場と交流 ・20 代、30 代の転出が減る、止まる	子育て世代の支援充実	・読み聞かせ活動を充実させる ・子育てネットワークを作る ・総合的子育てシステムを創出する ・待機児童対策の実現　未就学 →学童の支援員をふやす、支援する →学童と放課後子ども教室を共用 ・町民が運営するショップ ・短時間地元で働ける場をつくる
	・高齢者の積極的健康維持向上活動が整備されている（もっと）	高齢者支援の充実	・健康増進プログラム（場所）を増やす ・高齢者支援隊（見守り、買い物など） ・政策の洗い直しをして町民を大事にする体制に ・楽しくすごせる場を増やす（元気で暮らし続ける） ・認知症カフェをつくる ・福祉に向いた優秀な人材を確保する ・福祉の担い手を大事にするための支援 ・介護福祉の事業の支援、大切にしてほしい
	・町民自治の活動 ・人と人が協力できる町 ・「手助けがほしい」を発信できるまち ・担い手を育てて続くまち ・高齢者が動いて色々やってくれる ・住民が担いたい事、やりたいことを支援する	手助けの体制整備	・第2のシルバー人材センターを作る ・シルバー人材センターのやれることを増やす ・高齢者を支える担い手として育てる ・町の事務等人手が足りないところを手伝ってもらう ・ボランティア団体をまとめる団体をつくる ・ボランティアの組織づくり ・困り事ネットワークの作成 ・やれる事、考えられる事がある人のネットワーク ・町とつながりを持って動く人を増やす、集める ・ワークショップをくり返して発掘する

目指したいまちのイメージ	課題をグループ化	大きな課題	課題を解決するための手立ては何か
自然と共存した安心・安全な町	・山、海を整備する、ゴミ等なくす ・あるものを大事にする ・カラス危険の看板が春にほしいです ・時折素晴らしい夕焼け空が	自然との共存	・不用、要の土地放棄できるルールがほしい（国） ・環境整備のためのグループ作り ・バイオマスで発電
	・自然を活かすスポーツ事業 ・ヨガ ・町のイベント　ヨガ等 ・ちょいボラがいっぱいいる ・犬と一緒に行けるところがある（公園、店） ・みんなで作っていくお祭りの形	自然を活かしたイベントやスポーツ等の推進	・安全な町、おだやかな街だという印象をやんわりと伝えたい ・道路や山の整備、活用の参加を募ってほしい
	・災害に負けないで自然と共存できるまち ・町の仕事 ・気候が荒々しくなってきている、防災を見直し課題を抽出する必要がありそう ・避難場所、体育館で良いのか ・町民からの情報（自然災害など）を受け付けるツール、セクションがほしい	防災体制の整備	・住んでみなけりゃ分からない ・駅前や路地、狭いところを住民のゆずり合い成功しているこのままで ・人が集合できる場所、休憩所を作る（駅前） ・お金を使ったキャンペーンはダメ。ブームの後は…
	・支援の必要な人の把握 ・支援の必要な人とボラを結びつけるシステムの必要 ・コミュニティがある ・お互いの顔がわかるまち	支え合いの体制整備	・あいさつ運動 ・見覚えのある人に出会える規模のやさしい町 ・ボランティアセンターの創設
	・町に電灯がない ・治安が良い ・安全な町 ・歩道がせまい ・生活道路見直し、こわれたまま ・カーブミラーを願っていました。やっとつけていただき、すごく見やすくなりました。	安心・安全な環境整備	・門戸活動（LED・太陽灯）もっとふやす ・困り事がすぐつながる ・地区によってちがうことを認識しあう
	・後継者問題の解決が必要 ・荒れた山を整備する人がいない ・古くからの銘店の跡継ぎがいない	後継者問題	・町の役割として銀行と協力して事業継承を活性化する ・町内・地区内で注文する →地産地消、宣伝 ・伝承プログラムをつくる ・逸品会の活動を支援